

2023 年度（令和 5 年度）事業報告

社会福祉法人藤心会

はじめに

社会福祉法人藤心会は、地域における介護サービスを提供する広域的法人として、「快風苑」、「ふじの郷」、「結いの丘」という3つの特別養護老人ホームの施設を運営し、その事業の円滑な運営に、役員並びに職員が一丸となって取り組んでおります。

各施設においては、各々の事業計画に基づき積極的に事業を推進し、介護サービスの充実と効率的な業務の執行に努めております。

2023年度は、法人運営の更なる円滑化のため、3施設の連携を図り、法人本部機能の強化・充実を進めてまいりました。

ここに2023年度の法人本部の取り組みと、各施設における事業を報告いたします。

I 法人本部

(1) 理事会の開催

第1回	2023年6月3日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 2022年度事業報告及び同年度収支決算について・ 評議員選任・解任委員の選定について・ 次期役員候補者について・ 次期評議員候補者について・ 役員等の報酬について・ 定時評議員会開催日程及び議案について・ 理事長・副理事長の職務執行状況の報告について
第2回	2023年6月19日	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長の選任について・ 理事長の職務執行状況の報告について
第3回	2023年7月19日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長・副理事長の職務執行状況の報告について・ 苦情解決第三者委員の再任について
第4回	2023年11月1日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長・副理事長の職務執行状況の報告について・ 2023年度 第1次補正予算について・ ゆいっこ保育園 園長の再任について・ 藤田昌弘理事の利益相反取引について
第5回	2024年2月24日	<ul style="list-style-type: none">・ 本部指導監査の結果報告について・ 2023年第2次補正予算(案)について・ ふじの郷、結いの丘指導監査の結果について・ ふじの郷平塚保健福祉指導監査の結果について・ 業務執行理事(副理事長)の選任について・ ふじの郷、結いの丘給食委託業者の変更について
第6回	2024年3月27日	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長・副理事長の職務執行状況の報告について・ 2023年度第3次補正予算(案)について・ 2024年度当初予算(案)について・ 定款細則の変更(案)について・ 各種規定の変更(案)について・ 事業継続計画(BCP)について・ 2024年度事業計画について

(2) 評議員会の開催

定 時 2023 年 6 月 19 日

- ・ 2022 年度事業報告及び同年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）並びに財産目録について
- ・ 理事長・副理事長役員報酬について
- ・ 次期役員候補者について
- ・ 理事及び監事の選任について

(3) 組織体制の構築

(4) 会計を経営に生かせるように、会計の会議を増やし改善・改良を図った。

(5) 各種規程の変更を検討し、より良い法人を目指す事を図った。

(6) その他

- ・ 各事業所におけるコロナ感染への対応と、感染拡大防止策を進めた。
- ・ 各事業所の職員不足に対応するため、人材募集・確保に努めた。
- ・ 「快風苑」及び「ふじの郷」の設備老朽化への対応を図った。
- ・ 「結いの丘」の経営及び組織運営の安定化を図った。

II 特別養護老人ホーム「快風苑」

特別養護老人ホーム「快風苑」は、創設以来 19 年となり、着実に事業を推進しております。2023 年度も施設内で新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生やインフルエンザの流行等の感染対策に追われる一年となりましたが、職員一丸となって、安全・安心な施設運営を目指し、介護サービスの充実強化に努めてまいりました。

ここに、2023 年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告します。

(1) 2023（令和 5）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2023 年度の目標	具体的な取り組み	年度反省・課題
事務	① 施設・設備・備品の計画的な保守管理 ② 地域交流の活性化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 施設修繕や BCP 対策について境木の丘と共通認識を持ち計画的に進めるために 3 か月に 1 回程度の話し合いの場を設ける 感染症発症時、災害時等においてフロア業務が滞ることがないよう物資を確保しその情報を共有する 地域清掃の再開する共に情報を収集し新たな地域貢献の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 境木の丘との定期的な話し合いは出来なかったがコミュニケーションを取ることによって迅速に対応できたところもあった。近い将来の大規模修繕に向けての計画的に進められるよう話し合いの場をもつ。 感染症発症時混乱なく物資の準備やフォローができた。 地域清掃や地域防災訓練など参加をすることで交流の機会を持つことは出来たが来年度以降は受け身ではなく施設発信による地域貢献の場を設けていきたい
生活支援	① 入居率の安定化を図る ② 各種行事の工夫充実	<ul style="list-style-type: none"> 他部署との情報共有を効率的に行い第 2 号保険者、単身者、精神病院からの受け入れを積極的に検討する 新しい生活様式を踏まえ主要行事の復活、充実の他、個別対応の食事行事やレクリエーションを充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> 医療ニーズ、認知症状により受け入れが困難な方が増える一方で申込み自体は減少している。多角的視点で努力をしていく必要がある。他の施設にはない特徴を作るとともに SNS や広報活動などにも力を入れていきたい お祭りや新しい食の行事を取り入れるなど楽しんでいただけた。旬の物等を取り入れ、より一層季節感を感じられるようにしていきたい。また行事については新しい形でスタートするので新しい企画にも取り組んでいき楽しさを増やしていきたい。
看護	① ケアの手順、処置の統一、評価・再計画プロセスの定着 ② アセスメント・経過記録の工夫、評価	<ul style="list-style-type: none"> 処置表を改善し手順の明記、評価の共通認識が出来る経過表を作成し計画性のあるケアをおこなう 毎月記録監査の時間を作り客観的に評価し誰 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の処置表で情報共有を強化した。特に褥瘡の処置に関しては委員会 N s を中心に計画書に基づき処置を行えているが看護課全体で取り組めるようにしていきたい。 記録監査については 6 月までは実施できていたが、それ以降は人数の兼ね合いで

	③ ご家族との信頼関係を築く	<p>が見てもわかる記録を残す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面会や受診時などを利用し会話の機会を作る 	<p>実施できなかった。 記録内容の充実については情報共有のためにも必須であるため次年度の課題としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室と連携しご家族への投げかけも積極的にできた。 引き続きご家族との良好な関係を築いていきたい。
介護	<p>① 開かれた『新しい介護課』の再構築</p> <p>② 感染症との共存</p> <p>③ 積極的な加算の取得と経費削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等積極的に参加してもらい意見を抽出し、士気の向上安定したケアの提供につなげ働きやすい環境づくりを進める ・感染症が発生した場合に迅速かつ的確な対応ができる環境作りを強化し拡大防止に努める ・引き続き経費削減に取り組むと共に新しい加算の取得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任会議に職員を参加させ再構築を試み議題提案⇒解決の流れが出来ることで意識が高まった。 引き続き安定したケアの提供を進め職員が働きやすい環境を整える。 ・クラスターが発生したが迅速かつ的確に対応が出来、指示を出さなくてもそれぞれに動くことが出来た。 引き続き反省を生かし進化したい。 ・新しい加算の取得に関しては施設全体での取り組みが必要。 引き続き経費削減の努力をしていく。

(2) 2023年度の入居者・退居者等の状況

特別養護老人ホーム 快風苑													
1. 利用者の状況													
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	466	468	461	496	496	461	477	480	482	462	447	467	5,663
女	1609	1674	1586	1652	1664	1620	1674	1619	1648	1643	1483	1532	19,404
計	2075	2142	2047	2148	2160	2081	2151	2099	2130	2105	1930	1999	25067
2. 上記利用者の介護度別					平均介護度		3.9						
■実人数													
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	20	21	18	19	19	19	19	20	19	20	18	19	231
介護度4	28	30	32	30	27	27	28	26	27	27	26	26	334
介護度3	21	20	22	21	22	22	22	22	23	23	23	22	263
介護度2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	20
介護度1													0
計	70	72	73	71	70	70	71	70	71	72	69	69	848
3. 2023年3月31日現在における待機者数 名													
4. 2023年度新規入所者の状況													
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅	1	1	1		1		1		1	1	1		8
療養医療施設													0
他医療施設	1		1	1						2			5
介福祉施設													0
介保健施設		1	2										3
その他							1	1				2	4
計	2	2	4	1	1	0	2	1	1	3	1	2	20
5. 退所者状況													
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	2	3	3	2		1	2		1	4	1		19
長期入院									1				1
他施設												1	1
計	2	3	3	2	0	1	2	0	2	4	1	1	21
6. 短期入所利用者状況													
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	13	15	10	17	15	11	16	15	14	15		13	154
延人員	103	106	83	129	127	89	135	127	140	132		115	1,286
7. 上記利用者の介護度別延べ人数					平均介護度		3.22						
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	19	22	18	29	14	24	34	43	58	51	0	45	357
介護度4	10	2	8	11	18	21	25	19	15	13	0	5	147
介護度3	43	42	35	46	32	7	20	12	11	9	0	20	277
介護度2	31	37	14	43	36	26	32	53	56	59	0	45	432
介護度1			8		27	11	24						70
要支援2		3											3
要支援1													0
計	103	106	83	129	127	89	135	127	140	132	0	115	1286

III 特別養護老人ホーム「ふじの郷」

23年度は、コロナウイルス感染症の大規模クラスター発生に始まりましたが、徹底した感染症対策を継続し、その後の稼働率の維持に努めて参りました。

今、ふじの郷は内部要因や外部要因により、大きな変革の過渡期にあり、厳しい状況が続いておりますが、安全・安心な生活の場としての機能を維持し、地域に根ざした施設運営に充実に努めて参ります。

ここに2023年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告いたします。

(1) 2023（令和5）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2023年度の目標	具体的な取り組み	年度反省・課題
事務	<ul style="list-style-type: none"> ○ムリ・ムラ・ムダを減らし合理化を進める ○安全・安心・清潔・快適な施設管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○他部署との連携協力により、事務作業を進めることができた ○年間計画に則り、施設管理の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○業務効率の改善には、更なる工夫が必要。業務の整理を進め、合理化・簡素化を図り、経費削減に取り組む。 ○クラスター発生時の感染防止対策に積極的に取り組む。 ○備品等の保守管理・修繕に業者依頼する件数を減らす取り組みが出来た。
生活支援	<p>(栄養)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養マネジメント強化加算及び経口維持加算等の取得の取組み ○ワイズマンの活用 ○学会分類2021(食事)に沿った食事形態の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○人員の補充ができず、栄養マネジメント強化加算取得の準備ができなかったが、栄養ケアマネジメントの手順書は作成済 ○経口維持加算取得についても、現時点で準備はできていない、歯科医とも連携し対象者について検討を行ったが、進めることができなかった ○ワイズマンの活用についても、他部署の入力が追い付かず未実施 ○管理栄養士の採用も決まったため、栄養マネジメントについてはワイズマンソフトに移行し、業務分担を行う ○学会分類に合わせた食事形態の見直しについても、着手できていない、委託業者の変更もあり、直ぐの対応は困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○委託業者の変更に伴い、食事の味や質が落ちている印象がある。メニューも含め食材の検討が必要だが、必要経費が施設への請求に繋がるため、直営で運営するのと同じような精査は必要。 ○栄養マネジメント加算の取得については、人員確保ができた。LIFEの加算取得は他部署との連携も必要のため、まずは栄養マネジメント強化加算取得の準備に取り組む。週3回のミールラウンドの実施と、記録の取り方、LIFEへのデータ送付方法についても検討が必要。 ○学会分類に合わせた食事形態の変更を行いたいですが、委託業者の変更により、調理師と食事内容の安定が出来た段階で実施したい。

生活支援	<p>(相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○稼働率の維持 ○新規顧客の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間稼働率 97%維持 ○他事業所・関係機関との連携により、新たな顧客確保に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間稼働率 98% ○入退所の件数が少なかったこともあるが、効果的に新規入居の受入れが行え、目標値を超えることができた。 ○ショート稼働率がコロナ前の状況に回復傾向あり、今後も居宅事業所との連携を密にし、稼働率の維持に努める。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ○こまやかな健康観察により、早期発見、悪化防止に努める ○看取りケアの充実 ○感染症対策の継続 ○介護ソフトの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の健康観察をこまやかに実施し、異常の早期発見、悪化防止に努め、QOLの維持に繋げる ○退居者の9割は施設での看取りとなっているため、ACPを含め、より良い看取りケアの充実に努める ○基本的な感染症対策の継続とクラスター発生防止 ○各部門との情報共有を進め、新たな加算算定に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○急変や入院を要する状態とならず、安定した施設生活を維持できた。 ○例年になくケースとしては少なかったが、各部門との連携により、看取りケアを実施できたACPについては、関係機関とも連携し、啓発を含めた取組が必要。 ○年度当初にクラスターの発生があったが、以後の感染対策により安定した状態を維持できている。感染対策が形骸化しないよう引き続き危機管理意識を持って全体で取組む。 ○介護ソフトの取扱い、タブレットの使用に問題はないが、新加算算定に向けた取組みまでには至らなかった。
介護	<ul style="list-style-type: none"> ○配信サービスを活用し十分な研修の実施 ○特定技能外国人の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度はウェルスカスタマークラブの配信サービス（eラーニング）を使用し、主に法定研修を実施した監査指導後、研修内容を変更したい面での研修を行うことができた ○月2回の研修実施（国家試験）や日々の業務を通して経験することでの成長が顕著。ケアにおける悩みについても、リーダーがアドバイスやフォローを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ○配信サービスを使用した研修は職員の満足度や得た知識の活用程度が低いと報告書から感じられる。配信ではなく対面での施設内研修を実施する必要がある。 ○1名についてはABCの勤務が独り立ちした。1名については次年度より夜勤は始まる。年度後半に十分な研修が行えなかったのが反省である。

<p style="text-align: center;">介 護</p>	<p>○余裕あるシフト作成と職員確保</p> <p>○介護ソフトの活用</p>	<p>○4月～12月は余裕のあるシフト作成ができる人員が確保されており、研修を実施する余裕もあったが、1月からは退職者が相次ぎ、その分を埋める採用ができなかった退職者が出る可能性を考え余裕のあるうちに採用して育成しておく必要があったと思う</p> <p>○ソフトが導入されて2年目 事故報告書もソフトでの作成を行った ケアプラン作成における照合や評価もソフトを使用し行っている</p>	<p>○同時期に何人もの退職者がでることになってしまった。退職者は10年以上勤務した職員もいたが、慰留することができなかった。</p> <p>○1年の間に作成の仕方も委員会で話し合い進めた。ケアプランに関しては大きな問題なく活用できている。</p>
--	---	--	--

(2) 2023年度の入居者・退居者の状況

特別養護老人ホームふじの郷

1. 入居者の状況(入院・外泊者除く)

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	15	15	15	16	16	16	16	16	17	18	18	18	196
女	55	56	56	56	54	56	54	54	54	52	52	52	651
計	70	71	71	72	70	72	70	70	71	70	70	70	847

2. 上記入居者の介護度別 平均介護度 3.81

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	15	16	15	18	16	16	15	16	16	15	15	15	188
介護度4	27	29	28	26	26	28	28	27	29	29	29	29	335
介護度3	26	24	26	25	25	25	25	25	24	24	24	24	297
介護度2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	27
介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	70	71	71	72	70	72	70	70	71	70	70	70	847

3. 令和6年3月31日現在における待機者数 55名

4. 2023年度新規入居者の状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅			1				1						2
療養医療施設													0
他医療施設													0
介福祉施設	1	1		2		2			2	1			9
介保健施設													0
その他													0
計	1	1	1	2	0	2	1	0	2	1	0	0	11

5. 退居者状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡(看取り)		1		1		2			1			1	6
死亡(医療機関等)													0
長期入院													0
他施設			1	1		1		1	1				5
計	0	1	1	2	0	3	0	1	2	0	0	1	11

6. 短期入所利用者状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	40	38	42	48	46	44	43	47	52	50	47	44	541
延人員	378	425	451	551	528	505	487	464	523	504	546	559	5,921

7. 上記利用者の介護度別延べ人数 平均介護度 3.1

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	10	26	39	32	9	15	27	20	35	29	18	24	284
介護度4	90	61	81	151	139	112	102	89	136	15	161	166	1,303
介護度3	180	219	232	233	265	273	270	275	270	274	272	275	3,038
介護度2	93	107	92	119	107	103	75	71	73	76	93	88	1,097
介護度1	5	8	7	16	8	2	13	9	6	6	2	2	84
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	4	11
要支援1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	378	425	451	551	528	505	487	464	523	404	546	559	5,821

IV 特別養護老人ホーム「結いの丘」

特別養護老人ホーム「結いの丘」は、『～さまざまな縁を結ぶ 安らぎの丘～』をスローガンに掲げ、3年が経ちました。状況に応じて感染対策に取り組みつつもご利用様が楽しめる環境づくり、そして職員が働きやすい環境の整備に努めてまいりました。

ここに、2023年度の各部門の取り組み目標に対する評価・課題について報告します。

(1) 2023（令和5）年度 各部門の重点目標に対する年度末評価・課題

	2023年度の目標	具体的な取り組み・数値目標	年度反省・課題
事務	<ul style="list-style-type: none"> ① 本部機能への貢献 ② 他職種との連携 ③ 加算の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本部業務に積極的に関与し、法人運営に貢献する ② 部門間の情報共有がスムーズに進められるように工夫する ③ LIFEの導入に向け、多職種との連携を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設事務の不在により、本来の施設事務としての業務さえ行うことが難しく、本部の業務には関与できなかった。 ② 面会等の予約情報や、ユニットの在庫管理状況はこまめに情報共有する事が出来たが、入居者様に関しての情報共有は今後も共有方法を工夫が必要。 ③ チーム発足→知識の共有・定着→LIFE導入までの流れがうまく作れなかった。
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設サービス計画の作成 ② ご家族、ご利用者との信頼関係の構築 ③ 施設のオープン化 	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的なカンファレンスの実施による、多職種の意見を取り入れたプラン作成と交付必要帳票の不備がないように、内部監査を実施する ② ご利用者並びにご家族のご要望を真摯に受け止め、必要な情報の共有化を図る またリアルタイムでの情報提供に努め、タイムラグからの不安感が発生しないようにする ③ コロナウイルス感染症が5類変更により、ご利用者ご家族の交流等の機会（各行事へのお誘い等）を確保することに努め、施設のオープン化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的なカンファレンスの実施により多職種の意見を取り入れたプラン作成と交付ができた。内部、外部監査の実施時も特に問題はなかった。 ② ラインでの情報共有や連絡、相談を活用するようになり電話に出ていただければ共有が難しいというようなラグはなくなったように感じる。 ③ 冠婚葬祭以外の外出も検討次第では対応している。面会に関しても段階を踏んで、オープン化を図った。

<p style="text-align: center;">生活 実 施</p>	<p>lon1 ミーティングの導入</p> <p>[栄養]</p> <p>① 栄養スクリーニングの実施</p> <p>② 業務の効率化</p> <p>③ 学会分類 2021(食事)に沿った食形態の見直し</p> <p>[機能訓練]</p> <p>④ 個別機能訓練の充実</p> <p>⑤ ご入居者様とのコミュニケーションの充実</p>	<p>その都度によってスタイルを変えながら実施</p> <p>① 栄養スクリーニングを軌道にのせ、基盤を作る 嗜好品・栄養補助食品について、昨年度の嗜好・満足度調査をもとに改善・提供する</p> <p>② 年間を通じて業務内容を把握し、年間予定に組み込む 各種レクの改善など、業務の効率化を図ることで、多職種・ご入居者様と関わる時間を確保する</p> <p>③ 他事業所との共通認識できるような食事名称及び形態の見直し</p> <p>④ 必要性の高い方(拘縮予防・ADL維持)を中心に、訓練・評価・ケアカンファレンス等の基盤となる流れをつくる</p> <p>⑤ 多職種との連携を密に行い、週一回はお声がけできるようにラウンドを行う</p>	<p>ミーテング実施は年度初めはこまめに出来ていたが、後半は業務多忙につき困難となった。</p> <p>① 嗜好調査もとに検討・実施。</p> <p>② 行事委員会と共同でクラブやレクが行え、業務のスリム化が行えた。 多職種間との連携が思うように取れていなかった。</p> <p>③</p> <p>④ 現場職員と連携を取り、必要な方へ介入することができた。</p> <p>⑤ 多職種間との連携は取れていたが、決まった人・部署との連携が多くなり、情報共有が狭い範囲だった。必要な人・部署へ行き届くように視野を広げる必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">看 護</p>	<p>① 心のこもった安心できる看護・医療体制を築く</p> <p>② 信頼される医療サービスを提供</p>	<p>① 他部署との連携を密にし、誰が何を聞いても分かる申し送り体制を構築する</p> <p>② 常にご入居者様のサービス視点に立った接遇を心掛け、ご入居者様やご家族の尊厳と権利を尊重する 観察とコミュニケーションにより、ご入居者様を知り、非言語的なサインを見逃さずに捉える</p>	<p>① 他部署との連携を取れるよう、積極的なカンファレンスの参加、看護間での共有は継続できたが、個々に浸透しなかった面もある。細かい情報はパソコン上での申し送りを見る習慣が定着していない為、今後の課題とする。薬のチェックではユニットとのダブルチェックにより、ミスを少なくできた。</p> <p>② 日々の看護ではご入居者様、ご家族様の意向に寄り添う努力は出来た。 異常の早期発見の為、他スタッフとの連携を密にしたが、非言語的サインを把握する事ができず、褥瘡を悪化させてしまっ</p>

			た為、充分な観察が出来なかった。
介 護	<ul style="list-style-type: none"> ① ご入居者様一人ひとりに応じた尊厳のある個別の支援 ② 質の高い介護の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ① 効率を求めず、一人ひとりのニーズに沿った介護サービスを提供することにより、ご入居者様が自分らしく生活できる場を目指す 職員の不適切なケアによる苦情ゼロを目指し、ご入居者様が安心して笑顔で生活できる場を作る ② 職員の育成プログラムを策定し、介護技術の向上や、認知症の理解を深めるなど、職員が自己研鑽できる場を作り、質の高いサービスの提供を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ① 24時間シートを活用することにより、入居者の個別のニーズを聞ききとり、サービス提供に繋がった。職員の不適切ケアによる大きな苦情はないが、入居者からの小さな不満は聞かれた。面談、研修等での改善が必要。 ② 年間スケジュール通りの研修が行えたが、法定研修などの必要最低限の研修にとどまっている。研修項目や、参加人数を増やす必要がある。

(2) 2023年度の入居者・退居者の状況

1. 利用者の状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	749	729	634	675	683	697	790	724	714	674	584	610	8263
女	1925	1970	1692	1963	1854	1950	2198	2079	2078	2057	1826	2016	23608
計	2674	2699	2326	2638	2537	2647	2988	2803	2792	2731	2410	2626	31871

2. 上記利用者の介護度別 平均介護度 3.7

■実人数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護度5	18	15	15	12	12	15	14	14	14	11	13	12	165
介護度4	43	43	43	43	42	44	45	46	46	45	44	44	528
介護度3	30	31	31	33	35	35	35	34	32	31	24	26	377
介護度2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	18
介護度1							1				2	2	5
計	92	90	90	89	90	96	97	96	94	88	85	86	1093

3. 2024年3月31日現在における待機者数 26名

4. 2023年度新規入所者の状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
在宅		1		2	1	1	1				1	2	9
療養医療施設													0
他医療施設	1	1	1			2							5
介福祉施設	1			1		1		1					4
介保健施設					1	3		1	1		1	1	8
その他		1		1			1	2	2			1	8
計	2	3	1	4	2	7	2	4	3	0	2	4	34

5. 退所者状況

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡		3	1	4	1	1	1	5	3	3	5	1	28
長期入院		1		1				1	1			1	5
在宅復帰													0
他施設	1	1								3		1	6
	1	5	1	5	1	1	1	6	4	6	5	3	39